

平成31年 3月28日

平成30年度関西保育福祉専門学校

第2回学校関係者評価委員会報告

本校の学校関係者評価委員会設置要綱に基づき設置した学校関係者評価委員会において、第2回学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、概要をお知らせいたします。

1 開催期日 平成31年3月1日（金）15:00～17:00

2 開催場所 関西保育福祉専門学校校長室

3 出席者

■ 学校関係者評価委員

NO	委 員 名	所 属 等	出欠
1	長部俊弘 委員	社会福祉法人長陽会 ニコニコ桜保育園 理事長兼園長	出席
2	田渕勝彦 委員	社会福祉法人みおつくし福祉会 更生施設大阪市立淀川寮 施設長	出席
3	田中稔弘 委員	社会福祉法人 明石恵泉福祉会 西宮恵泉 施設長	出席
4	児玉敏男 委員	兵庫県立尼崎高等学校 校長	出席
5	今岡恵子 委員	介護福祉科2年生 保護者	出席
6	赤井 祐 委員	社会福祉法人聖隷福祉事業団 特別養護老人ホーム 宝塚栄光園 園長	出席
7	松本陽介 委員	学校法人阪急学園 いるか幼稚園 園長	出席

■ 学校教職員

NO	名 前	所 属 等	出欠
1	濱 名 篤	学校法人濱名学院理事長 関西国際大学学長	出席
2	本 田 あけみ	関西国際大学人間科学部 教授	出席
1	和 泉 喜久男	校 長	出席
2	白 桃 繁	事務局長	出席
3	細 川 明 子	教 頭	出席
4	山 本 晴 彦	学校自己評価委員長 保育科学科長	出席
5	尾 崎 朋 子	介護福祉科学科長	出席

4 概 要

(1) 協議1 2018（平成30）年度 学校自己評価に対する評価について

基準1 教育理念・目的・育人人材等
基準2 学校運営

- アドミッションで必要とする人材像を明確にしていく。
- 保護者への情報提供として、入学前の保護者会を行っているがその後の広報ができていないので、対応を考えていく必要がある。
- 高校卒での入学生、社会人での入学生では学力差が大きいと考えられるので、指導方法の工夫が求められる。
- 介護福祉科では、今後さらに外国人が増えていくと予想する。留学生を受け入れるルートが求められる。施設側としても、お金を払ってでも日本語力を身に付けた人材を求めている。
- ⇒ 次年度、週3回程度、授業で日本語理解をサポートしてもらえる外部からの人材配置を検討している。また、週2回、カリキュラム外の日本語指導を実施予定。今後、施設との連携をさらに密にしていきたい。

基準3	教育活動
基準4	教育成果
基準5	学生支援
基準6	教育環境

- 一般的にも、実習記録が書けない、誤字脱字が多い、コミュニケーション力が不足しているなど学生の実態として学力低下が課題になることがあるが、学生の学力状況をどのように見ているのか。
- ⇒ 現状として、以前より、定期試験合格者が減少し、再試験受験となる者が増えていること、テキストを読めない者や学生の実態として本を読んでいない者が増えていることなどが挙げられる。
- 大学入試方法が変わり、高等学校でも生徒にe-ポートフォリオの活用などにより、書くことを重視するなど授業方法を改善していく方向になっている。
- 介護福祉科での外国人留学生が増加するということが、受け入れは学校としての戦略的方策か。
- ⇒ 国において、介護人材不足対応として受け入れの増加が打ち出されており、本校への問い合わせが急増した。授業を理解できることが重要であることから、希望すれば誰でもということではない。
- 学生の自己評価であるベンチマークは、保育科と介護福祉科で実施時期を統一することが必要である。評価が低く、到達目標に達していない学生に対する手立てを考える必要がある。身に付けないまま卒業すれば、就職してから学生本人が困るのではないか。
- 施設でも職務遂行に関わって自己目標を立て評価するが、自己評価と他己評価の乖離が現実的にある。
- 評価項目の到達目標と教科のつながりを明確に学生に示すことも重要である。
- 到達目標を教育内容、カリキュラムにどう反映させるか検討し、評価委員会から提案していくことも必要である。
- 到達基準が1～3の3段階だと、2に集中する傾向が見られるので、4段階を検討する必要があるのではないか。
- 誰がどう答えたのか、つまり何を根拠に評価したのかを面談などを通して把握し、指導に繋げる取り組みを積み重ねることが必要ではないか。
- 退学率は昨年より上がっているが、「適切」の評価でよいのか。
- ⇒ 在学者の母数が減少し、割合が上がった面がある。
- 高等教育無償化の動きがあるが、無償化に伴って、2種免許から1種免許取得が必然となる。1種取得を処遇改善につなげるようにしていく方向が示されている。
- コミュニケーションが取れない、社会人マナーが不十分といった新人職員の現状があり、

そうした課題解決につながるものを取り入れていくことも必要である。

○ 社会人が減ったようだが、社会人と高卒生では学力的に差があるのか。

⇒ 定期試験結果などでは、総じて社会人経験者が高成績を収める傾向がある。

基準 7	学生の募集と受け入れ
基準 8	財務
基準 9	法令等の遵守
基準 10	社会貢献・地域貢献

○ 介護福祉科の留学生と共に学ぶ環境であるが、就職先でも外国人が増えており一緒に働くということになるだろう。言葉が通じないのではないかという不安はある。

○ 保育分野では、保育の仕事は酷で、一般企業に入ったら楽ということを聞くことがあり、一般のイメージだと考える。

○ 介護施設では、機械化導入を進め、働きやすい環境を整えている。イメージを変えることも大切で、学校と連携して人材育成を図っていきたい。

○ 高等教育無償化の動きに伴って、高校生の進路選択の動向が変化すると考える。悪循環に陥らないよう、募集状況、入学状況などについて現状分析する必要がある。外国人受け入れに際し入学前からのサポートの実施、社会人の学び直しの場合としての学校の在り方など検討することも必要ではないか。

○ コミュニケーション能力をつける教科指導の充実が求められている。

○ 地域貢献について、昨年度より評価が下がっている。

⇒ 現在も取り組んでいるが、もっと学校資源を生かした取り組みができるのではないかといい意見である。

○ 地域貢献の活動は幅広く、「できている」「できていない」の評価基準が難しいと考える。

全 体

○ 学校自己評価報告書における自己評価は、学校関係者評価として「適切」である。